

有明ニュース



癌研有明病院
The Cancer Institute Hospital of JFCR



平成20年 新年号 No.3

〒135-8550 東京都江東区有明3-10-6

TEL 03-3520-0111(代表)

(URL): <http://jfc.or.jp>

新年明けましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。

いよいよ癌研有明病院も移転後4年目を迎えることになりました。

この間、職員一同の努力のお蔭で病院は予測以上のスピードで大きく発展いたしました。全国調査において当院が常にトップクラスにランクされるようになったのも、患者の皆様が癌研病院を選んで下さったお蔭と感謝致しております。

今年は今まで以上のサービス向上を目指して、より高質の医療を提供するよう全員で努力して参る所存です。



米国大使館職員・クリスマス特別コンサート 癌研ボランティアコーディネーター 岩瀬政子



去る12月6日(木)17時から約1時間、外来ホスピタルストリートにおいて、アメリカ大使館ホリデーコンサートが、盛大に行われました。米国大使館シーファー大使のご発案による、大使館職員の皆様の特別コンサートとなり、本場のクリスマスソングを沢山披露いただき、会場の患者さんも一緒に口ずさんだり、パーカッションに参加したりと、職員の皆さんと一体となり、楽しい時間を過ごすことができました。

武藤院長の挨拶に始まり、その後は大使館館長のジェイムソン氏に演奏と進行を一手に引き受けていただき、エピソードを交えながら、時には武藤院長、山下副院長のダンスありと、楽しいコンサートとなりました。職員の皆さんは、勤務終了後、日々練習をなさっていたそうです。

コンサート終了後には、大使館の皆様からも、「楽しかった！また来年も来ます！ア・リ・ガ・ト・ウ」のお言葉をいただきました。今後も、当院と、米国大使館との定期交流の場になれば・・・と願っております。参加、協力して下さった皆様に感謝いたします。また、平成20年度も、毎月第三木曜日にホスピタルコンサートを予定しております。

皆さんとの大切なひと時を、一緒に過ごしたいと思います・・・



当院の専門看護師・認定看護師紹介

当院の専門看護師・認定看護師（2007年12月1日現在）

専門分野	当院人数	全国人数
がん看護専門看護師	3名	104名
緩和ケア認定看護師	3名	420名
皮膚・排泄ケア認定看護師	3名	570名
乳がん看護認定看護師	1名	51名
がん化学療法看護認定看護師	1名	204名

今号では、緩和ケア認定看護師と皮膚・排泄ケア認定看護師の活動についてご紹介します。

<緩和ケア認定看護師>

緩和ケアとは、がんに伴う苦痛症状を全人的（身体的・精神的・社会的・霊的）な視点で緩和し、よりQOL（生活の質）を向上させることを目的に行われるケアです。患者さんだけでなく、ご家族もケアの対象者とし、患者さん・ご家族を中心としたチーム医療で行われます。



左から、古井奈美（12東病棟）、秋元さやか（12東病棟）、平田良美（11東病棟）



緩和ケアチームが疼痛緩和リンクナースと患者ケアについて話し合っているところ

今年、がん対策基本法が制定され、早期からの緩和ケアの実践を強化することが求められています。当院においても、早期からの緩和ケアの実践「緩和ケアファースト」を目指して日々努力をしています。その中で、緩和ケア認定看護師は、所属している緩和ケア病棟、化学療法病棟はもとより、緩和ケアチームとして院内全体をラウンドし、積極的ながん治療を受ける方々を含めて直接患者さんにケアして実践モデルを示しています。また同時に、病棟スタッフと話し合う中で相談・指導を行い、適切な緩和ケアを推進しています。さらに、疼痛緩和専門委員会の委員長・副委員長を担い、院内全体の疼痛緩和ケアを向上させるために全部署から選出されたリンクナースを支援するとともに、マニュアルなどを整備し知識・技術を普及させていくことに力を注いでいます。

緩和ケア認定看護師の1名はリンパドレナージュセラピストとしても週1回、病棟を中心に患者さんの苦痛緩和ケアの一つとしてリンパ浮腫へのケア実践と相談・指導活動をしています。緩和ケア認定看護師は緩和ケアチームとして1200名/年の方に、リンパ浮腫ケアとして60名/年の方にケアを行ってきました。今後も、できる限り患者・家族の方々のQOLの向上を目指して活動していきます。

<皮膚・排泄ケア認定看護師>



右から、松浦信子、石川加奈子、石井佳子
(いずれも医療支援センター)

皮膚・排泄ケア認定看護師は、ストーマ造設患者（人工肛門や人工膀胱）・創傷（褥瘡・瘻孔）・失禁の専門領域の看護のスペシャリストです。

当院では 1978 年に日本で初めてのストーマリハビリテーション外来（2005 年以降 WOC 外来）を開設し、専門の看護師による看護提供が開始されてから 30 年余りになります。認定看護師と、病棟看護師や他職種とチーム連携を図り、よりよい看護実践の提供と教育・指導及び相談を行うことで質の高い看護を提供しています。

ストーマ造設患者ケアは、今までの排泄経路と違った新しい排泄の管理が必要となります。排泄は人間の基本的ニーズであるため身体の機能低下や社会生活を制限する排泄障害に対して苦痛を取り除き、尊厳を保ち、生きる意欲や人間らしさを取り戻すためストーマの局所ケアや装具の選択、ストーマ受容までのプロセスの援助、生活指導等を術前の入院から退院後、そして生涯にわたり外来でのストーマリハビリテーションを提供しています。現在は、ストーマ造設数は 120 人/年以上で、WOC 外来の受診者はのべ 1000 人/年、病棟でのケア提供は 3000 件/年になります。



ストーマケアについて術前のカウンセリングをしているところ

また、創傷ケアでは主に健康を害するような皮膚および皮膚障害の危険性が高い脆弱な皮膚の予防管理や、褥瘡（床ずれ）に対して回復を取り戻すケアをします。また、認定看護師と各病棟の褥瘡委員会の担当看護師（リンクナース）、栄養管理チームと連携し積極的に活動しており、当院の褥瘡予防の管理体制が整っています。その結果、褥瘡発生率は 1%未満と全国と比較しても低い値を維持しています。

失禁ケアでは、排尿障害及び排便障害の管理や、脆弱皮膚へケアを行っています。

眼科（一般診療部門）

スタッフ紹介



辻 英貴 眼科部長



田村めぐみ



視能訓練士：鈴木 さやか

当科の特徴

日本で眼部の腫瘍を専門にしている眼科は、そんなに多くはありません。眼部の腫瘍自体、とて

も頻度が少ないからです。我々眼部腫瘍を専門としている医師は、患者さん1例1例を大切にしっかりと治し、自発的に前向きに取り組んでいかななくてはと常に思っております。

当院では、眼部の原発がん、悪性リンパ腫、転移性腫瘍などの診断・治療に力を入れています。具体的には、眼瞼、結膜、眼窩、涙腺、眼球などの腫瘍、リンパ腫など全身と関連する眼部腫瘍、眼部転移性腫瘍、眼部浸潤性腫瘍などであります。また眼科一般についての診察も行っております。眼部悪性腫瘍の場合、患者さんの意見を尊重しながら、治療はなるべく眼球を保存する方向で進めていきます。また頭頸部の鼻腔・副鼻腔のがんから眼窩内への浸潤症例に対しては、頭頸科と連携し、治療を行っております。必要時には頭頸科・形成外科と共同で手術を行います。

眼部腫瘍についての基本的な方針は、確実な診断を行った上で、例えば眼瞼、結膜、眼内・眼窩における悪性腫瘍の場合は、手術および形成外科的再建を、また悪性リンパ腫、転移性腫瘍に対しては放射線療法や化学療法（抗がん剤など）と、それぞれのケースに合致する治療法を行っていきます。眼部悪性リンパ腫など、臨床・病理像が多岐に渡り、それにより治療方針や予後が変わる疾患に対しては、放射線治療科や化学療法科と連携して集約的治療を展開していきます。

患者数

紹介患者数は 2005 年： 91 人、2006 年： 131 人でした。ご紹介下さった施設の先生方に深くお礼申し上げます。今後とも末永くよろしくお願い申し上げます。

医療機関向け お知らせ

看護師募集

7：1 看護にするために

日本で最初にできたがんの専門医療機関として「患者さんのための医療」に力を尽くしていますが、今後、さらにより良い医療の実現とさらに発展させるために、看護師を大きく増員し、これまで以上に手厚い看護（7：1看護）で医療の質を高めたいと考えております。（7：1看護とは患者さん7人に対し看護師が1人配置される看護体制です。現在は10：1看護で行っております。）

あなたのやさしさを『がん看護』に・・・
まずはお気軽にお電話下さい。
ご応募お待ちしております。
お問合せ ☎03 - 3570 - 0398（人事課）
☎03 - 3570 - 0392（看護部）

先生方へご案内

医療連携室では、医療機関の先生方からご紹介患者様の診察予約をお取りしております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけて行きます。ご紹介方法について 電話・FAX でお申込みいただけます。（お急ぎでない場合は患者様自身にお電話いただき予約することもできます。）

財団法人 癌研究会有明病院

発行：医療連携室

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254

(E-mail): renkei@jfc.or.jp